



Asian Productivity Organization "The APO in the News"

Name of publication: Minami Nihon Shinbun (30 July 2014, Japan)

Page: p. 8

エルムの「追尾型太陽光発電」
国際機関が施設視察
南さつま

アジア生産性機構（APO）の太陽エネルギー視察団が29日、南さつま市の精密機器製造業「エルム」を訪れ、追尾型太陽光発電システムなどを視察した。APOはアジア太平洋地域の持続可能な社会経済発展に貢献することを目的に1961年に設立。20カ国・地域が加盟し、事務局は東京。今回は日本の太陽エネルギー政策を学ぶと、15カ国のエネルギー省関係者や専門家が来日し、27日～8月2日の日程で国内の施設を回っている。

29日に鹿児島県に入った一行は、南さつま市笠沙にあるエルムの発電所を訪れ、直径30・8メートルの太陽を追尾する発電システムを見学。回転する仕組みなど、30日は県庁や国内最大級の鹿児島七ツ島メガソーラー発電所（鹿児島市）などを視察する。南さつま市笠沙にあるエルムの発電所を訪れ、直径30・8メートルの太陽を追尾する発電システムを見学。回転する仕組みなど、30日は県庁や国内最大級の鹿児島七ツ島メガソーラー発電所（鹿児島市）などを視察する。

インド政府エネルギー省の再生可能エネルギー庁最高責任者のシヤレンドラ・シュクラさん（54）は「追尾型は非常にユニーク。インドでも適地が思い浮かぶので、導入を検討したい。非常に有意義な視察だった」と満足げに話した。

エルムの追尾型太陽光発電システムを見学するアジア生産性機構の視察団ら
＝29日午後4時ごろ、南さつま市笠沙町赤生木

児島市などを視察する。
(勝目博之)

(南日本新聞 2014年7月30日)